プレスリリース

CULTURE & TOKYO

平成28年7月20日
東京都江戸東京博物館

企画展「山岡鉄舟生誕180年記念　山岡鉄舟と江戸無血開城」 開催のお知らせ

平成28年8月11日（木・祝）～9月25日（日）

徳川幕府が置かれた江戸は、18 世紀初頭に推定で 100 万の人口を抱えた世界有数の巨大都市でした。明治新政府はその都市基盤を引き継ぎ、江戸を新たな都・東京としました。このような江戸から東京への円滑な移行は、「江戸無血開城」といわれるように、江戸が戦禍を免れたことによって可能になりました。

この江戸無血開城に大きな役割を果たしたのが、山岡鉄舟でした。鳥羽・伏見の戦いに敗れて江戸に戻った前将軍・徳川慶喜の護衛にあたっていた鉄舟は、江戸に迫り来る新政府軍との交渉役を慶喜から依頼されます。そして、新政府軍参謀の西郷隆盛と駿府で会談し、徳川家の処遇や戦闘回避の条件について協議を行いました。江戸無血開城といえば、勝海舟と西郷隆盛の江戸での談判が有名ですが、鉄舟もまた、その実現に深く関わっていたのです。

本展では、山岡鉄舟の生誕 180 年を記念して、その生涯に注目しながら、幕末・維新史のハイライトである江戸無血開城を振り返ります。

つきましては、貴媒体にて本展をご紹介いただけますようお願いいたします。なお、8月10日（水）午後5時より、本展および企画展「伊藤晴雨　幽霊画展」のプレス・関係者向け内覧会を開催します。併せてご出席賜りますようお願い申し上げます。

1　会期

【会　期】　平成28年8月11日（木・祝）～ 9月25日（日）　※会期中、一部展示替えがあります。
【開館時間】 午前9時30分～午後5時30分（土曜日は午後7時30分まで）
※夜間開館日（8月12日（金）、13日（土）、19日（金）、20日（土）、26日（金）、27日（土）、9月9日（金）、10日（土））は午後9時まで（ただし、9月2日（金）、3日（土）は通常開館）
※入館は閉館の30分前まで
【休館日】　8月22日（月）、29日（月）、9月5日（月）

2　会場

常設展示室　5F 企画展示室

3　観覧料

（1）一般	600円（団体480円）
（2）大学・専門学校生	480円（団体380円）
（3）中学生（都外）・高校生・65歳以上	300円（団体240円）
（4）中学生（都内）・小学生以下	無料

※（　）内は20人以上の団体料金。
※常設展示室観覧料でご覧になれます。

4　主催

東京都　東京都江戸東京博物館

5　特別協力

臨済宗　全生庵

6　展示構成、主な資料

1　天保期の江戸

「内憂外患」が本格化し、江戸幕府の体制が大きく動揺する天保という時代。本展のはじめに、山岡鉄舟が生まれた天保期の江戸の世相を、版本・刷物などから振り返る。

2　山岡鉄舟の生い立ちと活動

1836 年（天保 7）、山岡鉄舟は旗本小野家の五男として、江戸本所に生まれた。その後旗本山岡家に養子に入り、

1858 年（安政 5）に、同家の家督を許された。ここでは、山岡鉄舟の生い立ちとその政治活動を振り返る。

3　江戸無血開城と徳川家の駿府移封

1863 年（文久 3）に浪士取締役を罷免され謹慎を余儀なくされた鉄舟だったが、1868 年（慶応 4）2 月に精鋭隊頭に任じられ、前将軍慶喜の身辺警護にあたることになる。そして、翌 3 月には東征軍への使者に任じられ、西郷隆盛との面会を果たす。ここでは、江戸無血開城から徳川家が駿府に移封される前後の時期において山岡鉄舟が果たした役割を紹介する。

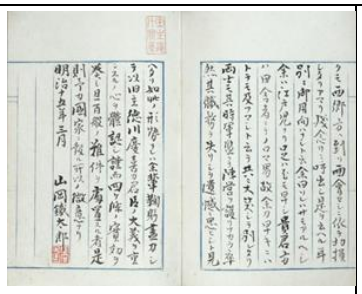
4　明治の山岡鉄舟

1872 年（明治 5）、鉄舟は宮内省に出仕し、侍従となった。ここでは、鉄舟が明治という時代をどう生きたかのかを、明治天皇との関係や、書家、剣術家としての面から振り返る。

【主な展示資料】

鉄舟胴乱
全生庵/所蔵

開基鉄舟居士肖像
全生庵/所蔵



慶応戊辰三月駿府大総督府ニ於テ西郷隆盛氏ト談判筆記
全生庵/所蔵

尊攘遺墨
全生庵/所蔵

七宝焼菓子皿（明治天皇下賜）
全生庵/所蔵

鉄舟最後の稽古着
全生庵/所蔵

御紋付銀盃（明治天皇下賜）
全生庵/所蔵

7　関連事業

■ミュージアムトーク（企画展「山岡鉄舟と江戸無血開城」のみどころ解説）　担当学芸員が展覧会をご案内いたします。
８月１２日（金）、８月２６日（金）　いずれも午後4時から30分程度　※常設展示室5階、日本橋下にお集まりください。

企画展「山岡鉄舟生誕180年記念　山岡鉄舟と江戸無血開城」展の広報に関するお問い合わせ
東京都江戸東京博物館　管理課　事業推進係　担当：田中裕二、大田、丸山
〒130-0015　東京都墨田区横網一丁目４番１号
TEL：03-3626-9907　FAX：03-3626-8001　E-mail：kouhou@edo-tokyo-museum.or.jp